

新博物館のあり方について（概要）

県立博物館

1 今なぜ新博物館かー新博物館整備の意義ー

- 《三重の未来を拓く人づくりのための拠点として》
県民の自己実現の場、次代を担う子どもたちの育成の場となることにより、三重の未来を拓く人づくりに役立つ拠点
- 《三重を知り、三重を学び、三重を伝えるための拠点として》
多様な地域性を背景とした三重のアイデンティティ（独自性・個性）を明確にし、地域づくりや地域課題の解決に役立つ拠点
- 《三重の豊かな自然と歴史・文化の資産を保全・継承し、活用するための拠点として》
三重の自然と歴史・文化の資産を保全し、100年、200年先に継承するとともに、幅広く活用するために役立つ拠点

2 めざす博物館の姿

新たな「文化と知的探求の拠点」

- 県民の自己実現と主体的活動の場となる**
ー人間力の視点からー
- ・生涯学習の拠点
 - ・県民参画による博物館活動と文化振興に携わる人材の育成
 - ・次代の担い手の育成

- 地域づくりや地域課題解決に貢献する**
ー地域力の視点からー
- ・地域文化の継承
 - ・地域づくり、地域課題解決、地域文化の創造のためのシンクタンク

- 人や地域をつなぐ連携・ネットワークを構築する**
ー創造力の視点からー
- ・県民のグループ・団体等、県内博物館との全県的な連携・ネットワークの中核
 - ・三重の創造力を高める拠点

3 博物館の基本的な性格

県民とともに成長する博物館

次代を担う子どもたちを育む博物館

三重の自然と歴史・文化を総合的に捉える「総合博物館」

三重の自然と歴史・文化の資産を保存し、その価値を発見できる場となる博物館

県内の博物館ネットワークの中核となる博物館

4 博物館の機能

博物館の基本的な機能（タテ系の機能）

（ヨコ系の機能） 人・地域との交流機能	県民参画機能	収集・収蔵機能	調査・研究機能	展示・情報発信機能	閲覧・レファレンス機能	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館活動への参画 ・運営方針検討・活動評価への参画
	学習支援機能	<ul style="list-style-type: none"> ・堅固な収蔵環境の確保 ・県内博物館等との資料収蔵ネットワーク体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・三重の自然と歴史・文化の調査研究 ・地域の課題解決・地域振興に対する貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来型の博物館展示の見直し ・県内博物館等との連携による「三重」の内外への発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・公文書館のもつ資料閲覧・レファレンス機能の一体化 ・資料を活用できる機会の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生涯学習機会の提供 ・学校教育との連携強化
	地域活動機能					<ul style="list-style-type: none"> ・全県域をフィールドとする活動の展開 ・県民等との協働による活動の展開
	人材育成機能					<ul style="list-style-type: none"> ・自然文化の保全・活用の担い手育成 ・県内博物館の人材育成・技術支援

5 博物館施設の整備の考え方

- 《立地環境、施設構成、施設・敷地の規模》
- ・公共交通機関・幹線道路で県内各地からアクセスしやすく、他機関との連携もしやすい県央部がもっとも適切
 - ・県民参画型を基本に据えた博物館の目的や機能が十分に発揮できる、ユニバーサルデザイン・環境にも配慮した施設構成と施設・敷地の規模

6 博物館の管理運営の考え方

- 《組織、運営形態》
- ・博物館活動を総合的にマネジメントできる体制
 - ・評価システムの導入、さまざまな運営形態の検討

今後、展開すべき連携の取組

県民参画による拠点機能の強化

連携

- ・多様な分野の人材との協働
- ・図書館、生涯学習センター、文化会館等との連携

他の文化振興拠点

三重の自然と歴史・文化の研究推進

連携

- ・共同研究
- ・客員研究員・協力研究員の調査・研究への参画

大学・研究機関

地域文化の創造・地域振興

連携

- ・学校教育との連携
- ・出前授業
- ・市町や研究グループ・団体、県民などとの協働による地域活動（地域資料の収集、調査、館外展示）

学校・地域

三重の博物館活動の活性化

連携

- ・人材育成・技術支援
- ・共同調査・研究
- ・資料収集・収蔵方針
- ・資料収蔵ネットワーク

県内の博物館等

